

支えあいのまちづくり協議体（京橋地域）実施報告

中央区に住む方・働く方ができる支えあいの形について、身近な地域で話し合う「支えあいのまちづくり協議体（第2層協議体）」の令和3年度第2回目を、京橋地域で開催しました。

1 実施日

令和3年7月16日（金）10:00～11:30

2 出席者

日頃高齢者と関わる機会の多い地域住民、関係機関、生活支援コーディネーター 8名

3 内容

- ・出席者近況報告
- ・前回の振り返り（本協議体の行動目標について）
- ・意見交換 「地域のつながりづくり」に向けた情報発信について

4 出席者近況報告の要旨

地域活動の開催状況や参加者の反応、他の地域資源の情報提供をはじめ、新型コロナウイルスワクチン接種に関する地域の反応などを伺った。

5 前回の振り返り

前回の協議体では、個々が考えてきた本協議体の「行動目標」を全体で共有し、類似の行動目標ごとにグループ化及びタイトルを設定した。最終的な目標として「助けあいの仕組みづくり」を挙げ、その達成に向けた目標として「日頃の関係づくり」、「社会資源の把握」、「つながるきっかけづくり・情報発信」が挙げられることを共有した。

今後の方向性としては、「地域とつながるきっかけづくりとして、地域の支えあいに関心のなかった人に向けて情報を発信する」という意見でまとまったことを確認した。

6 意見交換 「地域のつながりづくり」に向けた情報発信について

前回の協議結果を踏まえ、コーディネーターより行動目標の達成に向けた共通基盤となる「情報を“発信”する」ことから試行することを提案。

情報を発信するターゲットは、「機会があれば地域とつながりたい高齢者（以前は地域とつながっていた）」と設定し、「発信する情報の内容」及び「情報を発信する方法」についてワークシートに記入し、全体で共有した。類似の内容をグループ化しタイトルを設定した結果、図1及び図2のようになった。

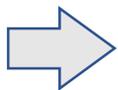
(図1)「発信する情報の内容」

身近な地域のサロン・イベント

- ✓ 自分でできること（日頃から行っている活動）
- ✓ 地域の社会資源（つながるためのロープとして）
- ✓ 気軽に参加できる小さなイベント、バザー
- ✓ 楽しい催し（新しい友達ができるかもなど、ポジティブな話題と共に伝える）
- ✓ 目で見て耳で聞いて楽しいと思えるイベントの案内

協議体のネットワークを生かす

- ✓ 本協議体のメンバーのネットワークで知り得ている活動を伝える
→医療、カフェ（居場所）、社協のサロン、医療ケア児（子ども関係）など、
多方面の領域の情報があるのが本協議体の“強み”である



私たちが日頃行っている、関わっている活動であれば挑戦しやすいかも！

(図2)「情報を発信する方法」

SNS（オンライン）で発信する

- ✓ LINE のチャット機能を活用する
- ✓ デジタルサイネージのある医療機関を探し協力を仰ぐ
- ✓ SNS の活用に強い企業などの力を借りる、地域を共に盛り上げる仲間を作っていく！

リーダーミーティングの開催

- ✓ 地域活動（社会資源）を運営しているリーダーと情報交換する
→オンラインで活動紹介、動画を区や社協のHP に投稿するなど

チラシで発信する

- ✓ 介護会社など日頃高齢者と関わる機会が多い方におすすめしてもらう
- ✓ SNS だと見ない、見られない人もいる
- ✓ ポスター（二次元コードつきでHP からも確認できる）を高齢者がよく行く場所（銭湯や集会所）に掲示する

7 振り返り・まとめ

ワーク終了後、メンバーからは以下の意見が挙がった。

- ✓ 「きっかけがあれば地域とつながりたい高齢者」をターゲットとして考えると、小さなイベントであると参加しやすいだろう。
- ✓ 小さなイベントの情報は少なくキャッチしにくい。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症の影響でイベント自体少なくなっている。
- ✓ 情報をどのようにわかりやすくまとめるかが課題だと思う。高齢者の困り感に基づいて検討するのも良いのではないか。
- ✓ 情報の伝え方は、色々な手段があって良いだろう。
- ✓ チラシを手元にとっておく高齢者は多い。
- ✓ 社会福祉協議会の事業、つながりを生かした情報発信をするのはどうか。

8 今後のスケジュール

次回は令和3年9月頃開催予定。

今回のワークの結果を踏まえ、具体的な取り組みについて検討を図る。

<参考> ワーク・報告の様子、ワークの結果

